

県内学生等の定着推進事業

en-ter あなたとわたしのつながるプロジェクト活動報告

前田 博子

(2017年3月10日受理)

はじめに

福井県の県内学生等による「en-ter あなたとわたしのつながるプロジェクト」活動についての報告である。

活動期間は平成27年～平成28年度。

1. 背景と目的

県内産素材を用いたアイテムをつくり、地域に発信する冊子制作及び展覧会の実施により県内学生の定着促進を目的としたものである。アイテム等の着用モデルは仁愛女子短期大学でデザインを学んだ卒業生とデザインを学ぶ在学生で構成。年齢が異なることと、短期大学では在学期間が2年ということから会ったことのない「センパイ」「コウハイ」をつなげるためのプロジェクトである。在学中には先輩の残した作品や考えに影響を受け課題や作品制作をおこなう者が多い中、互いを知る、知り合うきっかけがない現状を改めるためのプロジェクトである。今回使用した素材は卒業生が懐かしいと感じ、触れたことのある福井県産の生地や資材、眼鏡を使用している。在学生が憧れの先輩のための服を制作し、撮影会及び展覧会を行うことで在学生と卒業生、卒業生と卒業生をつなげ、人とモノ、人と人との交流を通して学生の定着推進を促すきっかけを提示する。

2. テーマの考察、サンプル制作

平成27年には「TURN」をテーマとし円や円弧による洋服を制作。「円をつなげる」「円を抜き取

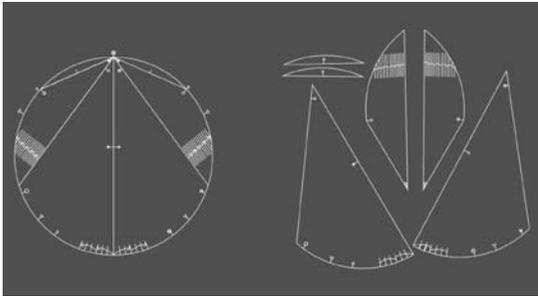
る」「円にみえる」「円をわける」といった円そのものから洋服の形、シルエット等を考察。薄手の生地からうまれる軽やかなシルエットや多重織によるハリ感を活かしたシルエットなど生地の特異性を模索し、洋服を制作。しかし、平成27年中に完成できなかったため、翌年先輩の考察結果を受け新2回生が制作を引き継ぐ形式をとった。先輩の残した制作物や結果をふまえ、平成28年は円そのものをモチーフとするよりは円を分割しパーツをパターンの一部として使用する方が「円」「つながり」「縁」の関係性を表現できると結論付け、平成28年の制作テーマを「円をキリトリ、つなげる縁」とした。



平成27年試作衣装「TURN」

3. アイテム制作

洋服を制作するための生地は福井県産のシルクタフタ、シルクナイロントフタ、ポリエステル綿チェック、ナイロンシルクチェック、シルクタックなど福井らしい薄手素材を選出し、付属品にはグログランテープなどの細幅織物を部分的なアクセントとして使用した。



円を分割したパターン例（サロペット）

洋服を構成するパターン（型紙）は、「円」を分割したものからつくられており、人が着ることのできる手と着用者の「縁」をつなげるという願いを込めた洋服となっている。円、もしくは半円が1つのアイテムとなるものや、母親のスカートパターンと子供のよだれかけのパターンが1つの半円になるものである。アイテムを構成するパターンを関係性やつながりをあらわす手段として用いており、「縁を纏う」ことを意味している。

4. 冊子制作

冊子を作成するため撮影会の実施。（平成28年10月23日(日)）

依頼モデルには撮影会への参加を必須とした。当日の撮影準備、ヘアメイク等は分担と協働を委ねることで、役割の自覚と協働の必要性、何よりも新たな関係性の構築になると考えたためである。

カメラマン、編集スタッフも学生や卒業生に「縁」のある方々に依頼した。

自身のモデル撮影時以外は場を盛り上げるためスタッフとしての参加協力を依頼。これは冊子が出来上がるまでの全ての過程に関係性を構築する

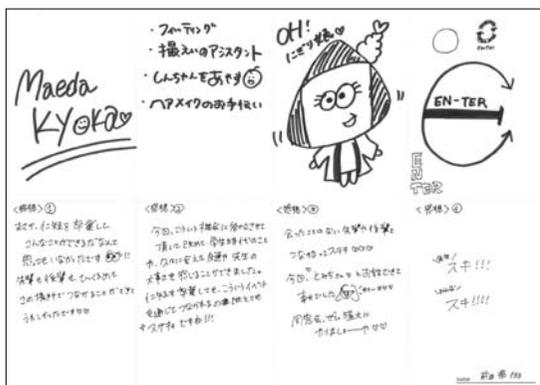


撮影風景

きっかけがあると考えたためである。これらのことで会ったことのない先輩、後輩ではない空気感が生まれ、ひとつのことを成し遂げようとする共同体としての機能を果たしていた。また撮影の合間にはWSを実施。在学時に作成したマスコットの紹介、本プロジェクトでの役割の認識調査、ロゴマークの考案等である。これらのことをふまえて誌面の構成は制作した衣装と衣装を構成したパターン、WSでの感想コメントにより作成。編集は本学卒業生でもある松浦えり（真空ラボ）へ依頼。



ws風景



WS終了時提出アンケート



完成冊子10-11P



完成冊子14-15P

5. 展覧会の概要

展覧会①

会場：NPO法人E&Cギャラリー

福井市間屋町3丁目111

システムマネジメント1F

会期：平成28年11月26日(土)～12月11日(日)

オープニングレセプション：平成28年11月27日(日)

展覧会②

会場：福井市美術館

福井市下馬3-1111

会期：平成29年2月16日(木)～19日(日)

展覧会③

会場：ファッションスペースITOチカ

福井市大手3丁目7-1

会期：平成29年3月16日(木)～29日(水)



会場風景



オープニングレセプション

主な展示物は円からつくられた洋服、ファッションアイテム（靴、帽子）と眼鏡を着装した写真のポスター（展覧会②③はタペストリー）、映像画像、冊子。洋服に使用されなかった生地（ハギレ）で作成したハギレブローチである。



展示用ポスター



ハギレブローチ

会期中には多くの卒業生や関係者が訪れ、活気ある展覧会となった。卒業生、在学生の交流を通して「センパイ」から学ぶことの多かった「コウ

ハイ」であるが、後輩の頑張りによって先輩も自身を律する意識や意欲を高めていた。これは互いに良い相乗効果をもたらしたと言えよう。

展覧会が卒業生と在校生、同級生同士の交流の場となるように各学年からの選出をおこなったため、卒業生の同級生等が来場しやすくなっている。



卒業生参加モデルと同級生

6. 結果、考察

本プロジェクトは会ったことがない先輩と後輩を逢わせる「きっかけ」と、人が会場を訪れる「きっかけ」をデザインとして捉えた結果である。憧れているだけの自分が憧れられる存在になっていることを実感した者や自身も憧れられる先輩になりたいと夢を増やした者等、職種や環境は異なるものの、互いを知ることにより、各々の意識や意欲を高めるきっかけとなっている。「enter」に参加すること（制作、運営、モデル、広報等）で新たな出会いの場やつながりを深める場となり「en-coun-ter」の空間となった。この「enter」に携わった人だけでなく展覧会を訪れた人にとっても「en-coun-ter」となるような仕掛けを会場づくりにいかした。制作に携わっていない人でもブローチをつけることによって「en-ter」に加入し「en-coun-ter」となる工夫を施してある。人と人をつ結び、人と社会をつなぐものづくりはこれからも必要とされる。わたしたちが理想とする社会には憧れた人がいる場所や大切なモノがある空間等さまざまである。

「モノ」重視だった時代から「コト」への移行がおこなわれている今、ファッションというアイテムは身体を包むモノ、着飾るモノだけでなくサービスデザインに加味され、人やモノ、コトへ

と発展させることができるのである。わたしたちの生活の中には「モノ」によって「コト」が生成されている。今回のプロジェクトはモノとしての価値を高める事ではなく関係性の構築や創造により成立している。卒業生、在学生といった関わりのなかった者が集うことで新たな関係性が構築された。デザインとは考えることであり、考えた結果が「モノ」として評価を得るのではなく「コト」に置き換わった時点で作品が完成するのではないだろうか。



さいごに

本事業をおこなう上でモノをつくり、展覧会等の実施には「人」が必要であり、人の集まりから得られる「理想」や「憧れ」がモノやプロジェクトそのものの質を高めてゆくのだと実感しました。多くの方々のご協力により成し得られたことに心より御礼申し上げます。

協力企業：中太織物有限会社
FACTRY900

衣装制作：佐藤 美羽 森本 遥香 牧田 智香
前田 博子

モデル：出前絵理子 (真一) 松本江利子
三上 真衣 松浦 えり 富田 千裕
才場穂乃香 中川 郁 前田 恭伽
牧田 智香 岩田 菜見 稲場 瑞穂
岩野 愛海 遠藤 莉沙 加藤麻未里
西端 彩花 廣瀬 留依 三好 琴音
佐藤 美羽 森本 遥香 青山 美里
荒井里緒菜 長谷川泰可

撮影：川副 景介

冊子編集：松浦 えり (真空ラボ)

監修：前田 博子

学生等の定着推進事業（福井県）採択事業